

令和7年度 学校自己評価システムシート

日高市立高萩小学校

目指す学校像	みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校
重点目標	確かな学力の向上 豊かな心の育成 健やかな体の育成

年度目標		学校自己評価					年度評価 (令和7年12月24日現在)		学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて
評価項目	具体的方策	評価指標	評価基準	教職員の割合	保護者の割合	目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和8年1月21日	学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等	「次年度の課題と改善策」に係る変更点や追加事項等(※変更点や追加事項等がない場合は空欄)
組織運営の充実 小中一貫教育の視点	小中共通の学校教育目標(かしこく・やさしく・たくましく)の具現化	1	学校は、思いやりの心を育み、進んで学ぶ児童の育成に努めている。	A+B	100.0%	92.4%	・保護者評価の割合は、昨年度と比較して高くなっている。小中合同引き渡し訓練や中学校での運動会開催など小中一貫の取組についても、一定の評価をいただいている。A評価の割合が低い点、教職員との割合の差がある点を踏まえて、取組が伝わる工夫・改善をおこなっていく必要がある。 ・全項目の中でも、一番高い評価をいただいている。週一回のロング昼休みは、自由に運動できる時間の確保になっている。本年度実施方法を変更したTAKAHAGIマラソンや運動会などの体育的行事については、更なる改善が必要であるが体力向上につながっている。体育主任が中心となって、教職員の指導力向上の研修も定期的に行っている。	X	・小中合同の委員会活動やあいさつ運動など、施設隣接型の利点を生かした活動を更に改善し充実させていく必要がある。そのための話し合いや交流の場を意図的に設定していく。また、体力の課題(R7は握力・走力)を活用して、活動の様子を保護者・地域へ伝えていく。 ・体育的行事については、今年度の反省を生かして、来年度、更に充実した行事としていく。また、体力の課題(R7は握力・走力)についても家庭と共有しながら、更なる体力向上の取り組みを進めていく。	・小中合同の委員会活動は、無理のない範囲で取り組んでもらいたい。小中一貫の取組は、教育課程や指導内容を重視して進めてほしい。 ・多様な時代で、様々な背景をもつ児童が増えている。先生方が子ども一人一人の特性や能力を考えながら指導しているのだからと感じる。信頼できる大人がいるということが、子どもたちにとって安心して学校生活を送ることができるとは思えないかと思う。 ・「思いやりの心」など、保護者がアンケートに答える際に、わかりにくいものがある。学校の具体的な取組などを紹介するなどの工夫が必要ではないか。	・保護者アンケートの際に、各項目に関する学校の具体的な取り組みを端的に伝える工夫をおこなう。
		2	学校は、外遊びを奨励し、体育授業を通して体力向上に取り組んでいる。	A+B	100.0%	97.2%					
基礎学力の定着	わかる授業の実践と学習習慣の定着	3	学校は、めあてとまとめが明確で分かりやすい授業に取り組んでいる。	A+B	96.3%	94.8%	・昨年度より継続して、学校課題研究を通して、授業改善に取り組んできた。児童の思考力を高めるために、発問の工夫や児童の意欲が高まるような授業の工夫をおこなってきた。教職員・保護者ともに昨年度より評価は高くなっている。 ・授業規律については、教職員が同じ認識のもと指導してきた。家庭学習についても、学年で量や質のバランスを考えながら課題を出している。家庭によって、家庭学習に対する考え方には違いがあることを踏まえて課題を出していく必要がある。	X	・授業の様子については、保護者には伝わりやすく、子どもたちの成長や家庭での会話から判断していただいている場合が多い。そのため、普段の授業を大切に、子どもが「わかる」授業、達成感を味わえるような授業づくりをしていく。教職員の授業力向上のため校内研修も充実させていく。 ・学習規律については、引き続き全職員が共通の認識のもと、指導を継続していく。低学年からの継続した指導が重要であり、中学校とも確認しながら9年間を見通した指導をしていく。家庭学習については、将来を見据えて、最低限の学習習慣を身につけることを目的として取り組んでいく。また、個に応じた課題を出すといった対応も必要である。	・学校課題研究を通しての授業改善は評価も高くなっており、今後も継続して行ってほしい。 ・家庭学習について、どのように取り組むかは、検討して行ってほしい。 ・項目3で職員評価のA評価が低い点について、教職員の自分自身の評価ではなく、学校全体の評価であることを徹底すよ。	・教職員の評価について、改めて評価の仕方を徹底する。
		4	学校は、授業規律の定着や家庭学習の充実を通して、学習習慣を身につけさせている。	A+B	92.6%	89.7%					
保護者や地域との連携 コミュニティ・スクールの視点	みんなで創る笑顔あふれるおらが地域の学校(目指す学校像)の具現化	5	学校は、授業や行事等の様子について、各種たよりを通じて教育活動の情報提供に努めている。	A+B	92.9%	93.4%	・学校行事の様子を中心に学校だよりを通して、保護者・地域へ情報提供してきた。しかしながら、ホームページでの情報提供など更なる工夫が必要である。また、基本的にはメール配信(電子データ)でのお便りの配布としているが、紙で欲しいという意見もいただいている。評価については、昨年度より高くなっている。 ・PTA活動については、昨年度中の検討により、活動を精選してきた。運動会やたより遠足では、中学生ボランティアや保護者・地域の方の協力のもと充実した活動となった。評価については、昨年度より高くなっている。	X	・ホームページやメール配信システムも更に活用して、必要感のある情報を発信していく。子どもたちの様子や学校の取組を伝えていくことで、よりわかりやすい評価をいただけるのではないかと考える。 ・PTA・中学校・保護者・地域との連携については、より充実した教育活動のために重要なものである。「みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校」の実現のために、負担感とのバランスを考慮しながら活動を精選し、更に連携を深めていく。	・今後も子どもたちのために、地域と連携し、地域の力を活用してほしい。 ・地域や家庭に情報を伝えていくには、繰り返し情報を発信していく必要がある。 ・項目5については、保護者アンケートが昨年度と比較して改善している。お便りなど、学校からのアウトプットが増えたのが良かったのではないかと考える。	・必要な情報については、適宜適切に発信していく。大切な内容については、場合によっては繰り返し伝えていく。
		6	学校は、PTAや中学校、保護者・地域の方々と連携して、児童の育成に努めている。	A+B	100.0%	94.2%					
社会性・人間性の育成	よりよい人間関係の育成	7	学校は、たてわり遊び等の異年齢集団活動を行い、豊かな心の育成に努めている。	A+B	100.0%	96.4%	・高萩小の特色の一つとして、保護者の方にも評価していただいている。たてわり遊びでは、中学校の校庭も使わせていただいている。小学校において、異年齢での活動は、豊かな心を育むことに有効である。たてわり遠足など高学年が中心となり、主体的に活動することができた。 ・学校運営協議会だよりを発行し、地域学校協働本部の活動を地域へ紹介することができた。また、地域人材の募集もおこなうことができた。環境整備についても、年間を通して実施していただき美しい環境のもと教育活動を進めることができた。	X	・異年齢集団での活動は、定着してきているが、中学校との連携も含めて、たてわりの活動ができないか検討していきたい。今年度実施した小中合同の委員会活動など、部分的なたてわり活動から小中一貫の取組を充実させていく。 ・地域人材の活用については、教職員の声を聴きながら、より充実した教育活動に適した人材の獲得、活用方法を模索していく必要がある。学校からも必要な情報を提供し、地域学校協働本部との連携を深めていく。	・たてわり活動はよい活動であるので続けて行ってほしい。 ・地域学校協働本部の活用を進めて行ってほしい。 ・地域や家庭に「地域学校協働本部」の存在を広めていく必要がある。	地域学校協働本部の活動について、ホームページやリーバールを活用して保護者・地域へ配信していく。
		8	学校は、授業での地域学校協働本部の活用に向け、整備・充実を図る努力をしている。	A+B	100.0%	93.9%					
安心安全な教育環境	安心安全な環境づくりといじめ問題への対応	9	学校は、児童を安心安全に通わせることができる学校づくりに努めている。	A+B	96.6%	89.6%	・毎日、萩っ子見守り隊の方々を中心に、地域・保護者の皆様に、児童の登下校の安全を見守っていただいている。PTAの地域パトロールや健全育成会・PTAによるあいさつ運動など、多くの方の協力を評価していただいたものとする。教職員評価A+Bは下がったが、教職員A、保護者A+B、A評価ともに昨年度より高くなっている。 ・いじめアンケートの毎学期の実施や保護者・児童との面談などを実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めているが、昨年度同様、保護者との差を埋めていく取組や情報の発信が必要である。保護者評価A+Bは昨年度より高くなっている。	X	・広い学区である高萩地区においては、萩っ子見守り隊の活動が必要不可欠である。隊員の高齢化などの課題も視野に入れ、児童自身の安全に対する意識を高めていくような活動も同時に進めていく必要がある。学校施設については、老朽化による修繕が必要な箇所もあり、危険箇所を優先的に修繕をおこなっていく。 ・まずは、未然防止を念頭に、日々子どもたちの声かけや指導を組織でおこなっていく。全職員で、子どもたちを見守るという姿勢で、引き続き早期発見・早期対応に取り組んでいく。いじめ防止について児童への啓発や教職員の研修を実施していく。	・登下校の無事故に向けて。今後も見守り隊の活躍を期待している。見守り隊の活動には、感謝しかないが、隊員の高齢化が心配である。 ・安心安全な教育環境を作っていくためには、保護者の方からの信頼をえることが第一歩だと考える。 ・保護者が一番不安に思う項目である。情報を精査しながら、伝えるべきことは伝えていかなければいけないと感じる。	・安心安全な学校づくりに向けて、どのような取り組みを実施しているか、地域や保護者へ伝えていく。
		10	学校は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A+B	100.0%	87.6%					